

ひかり

2023年9月号



Holy Baptism

日本聖公会 三光教会

第716号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nsskk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」 (ルカによる福音書：3・16)

「時のしるしを見分ける力」

管理牧師 司祭

ニコラス 中川 英樹

このたび、三光教会の管理牧師として、再び、皆さんとの交わりの中で奉職することになりました。10年ぶりの再会に、恥ずかしいような、嬉しいような想いを感じています。三光教会で過ごしたあの頃を思い返すと未熟過ぎた自分を思い知らされ、後悔を覚えずにはいられません。10年経った今、「少しは成長した」と想ってもらえるような働きをさせていただければ嬉しく思います。そして、三光教会が大切にしてきた、感謝と賛美の礼拝と地域宣教の働きを堅固に守りつつ、三光教会が宣教の第2世紀を歩むに相応しい働きを皆さんと共に一緒に考え、創り上げていきたいと思っております。どうぞよろしくお願います。

さて、世界の秩序、価値観を一変させた新型コロナウイルス感染症も一定の落ち着きを見せ、人びとの生活も徐々に回復しつつあります。3年に及ぶパンデミックの中で私たちは見えないウイルスと対峙しながら、けれど見えない大切なものによって生かされ支

えられている存在との自己理解を深めた一方で、厳しいディスタンスを強いられることで、たくさんのことを諦めたり、大切なものを手放したりしてきました。そのようなコロナ禍を過ぎ越して今、人びとの間で、そして教会の中でもこの先の歩みを思い巡らしつつ、コロナ禍前に戻るべき、あるいは新しいフェーズに向かうべき、とする二つの異なる立場からの想いが聞かれるようになりました。

人には2種類の人生への向き合い方があると言われます。それは、川に架かる橋で、下流側の欄干から、下流へと流れていくモノを見る人の様と、逆に上流側の欄干から、上流から流れてくるモノを見る人の様に喩えられたりします。前者は「これまで」を大事にし、そこに意味と価値を、さらに、そこに学ぶべきものがあると確信します。一方、後者は「これから」に力点を置き、そこに希望や光があることを期待し、これまでの反省を生かして前に進み出すことに意味と価値を求めます。

そうした立場の違いは、先に触れた「コロナ禍に戻る／戻す」ことを大切に想う立場、あるいは「前に向い歩み出す」ことを大切に

に想う立場、その両者の有り様にそのまま重なるように思います。コロナ禍前に戻るのか、あるいは新しいフェーズに向かうのか……もちろん、その在り方に優劣などないことは自明ですが、しかし、そこには、コロナ禍で私たちが散々傷つけた「分断」というものがまた違ったカタチで影を落としていくように感じられてなりません。

今キリストの教会に求められていることは、単に「戻るか」、あるいは「前に向かうか」といった論議ではなく、共同体を壊す分断を乗り越え、歴史全体を眺望するような預言者性なのだと思います。預言者のように「時のしるし(マタイ16:3)」を見分ける力が今の教会には必要です。そして、その力は、今のこの時勢の裂け目を涉つていく上で重要なことです。神はどのようなカタチで教会を遣わそうとされているのか。わたしたち信仰者自身の生き方(ライフサイクル)そのものが問われています。神から流れてくるもの・いくもの、その「時のしるし」に、注意深く配慮できる者在りたいと思います。

9月～11月の予定

- ◆ 9月
 - 17日(日) 聖霊降臨後第16主日
 - 19日(火) 主教セオドル
 - 20日(水) (秋期聖職按手節)
 - オーストリア・オセアニアの殉教者
 - 21日(木) 福音記者使徒聖マタイ日
 - 22日(金) (秋期聖職按手節)
 - 23日(木) (秋期聖職按手節)
 - 24日(日) 聖霊降臨後第17主日
 - 29日(金) 聖ミカエルおよび諸天使の日
 - 30日(土) 司祭教会博士ジエローム
- ◆ 10月
 - 1日(日) 聖霊降臨後第18主日
 - 2日(月) 10月逝去者記念礼拝
 - 4日(火) アシジのフランシス
 - 8日(日) 聖霊降臨後第19主日
 - 15日(日) 聖霊降臨後第20主日
 - 17日(火) 殉教者主教イグナシウス
 - 18日(水) 福音記者聖ルカ日
 - 22日(日) 聖霊降臨後第21主日
 - 28日(土) 使徒聖シモン・使徒聖ユダ日
 - 29日(日) 聖霊降臨後第22主日
- ◆ 11月
 - 1日(水) 諸聖徒日
 - 2日(木) 諸魂日
 - 5日(日) 聖霊降臨後第23主日

	7:30	10:30
第1	荻原充執事 (み言葉の礼拝と陪餐)	佐々木道人司祭 (聖餐式)
第2	中川英樹司祭 (聖餐式)	五十嵐正司主教 (聖餐式)
第3	荻原充執事 (み言葉の礼拝と陪餐)	荻原充執事 (み言葉の礼拝と陪餐)
第4	中川英樹司祭 (聖餐式)	中川英樹司祭 (聖餐式)
第5	荻原充執事 (み言葉の礼拝と陪餐)	佐々木道人司祭 (聖餐式)

インマヌエル新生教会
訪問記

永井 信行

7月7日(金)、佐藤百合子さんの提案によるインマヌエル新生教会への訪問が実施されました。

この夏一番の暑さと報道されたせいもあって、予定より少なかったが5名が参加。インマヌエルからは、卓志雄司祭、建築委員長の玉井さん他4名の信徒が参加してくださいました。西武池袋線江古田駅から徒歩10分、この教会は池袋聖公会、東京聖マルチン教会、練馬聖ガブリエル教会が合同し、ガブリエル教会の跡地に新築したものです。香蘭女学校を訪問された玉井さんが三光教会にも立ち寄り、こんなイメージが望ましい、と設計を石川恭温さん(三光教会)にお願ひすることになった、とのことでした。

「地域に根ざし、開かれた教会」を目指しているとのこと、いろんな所に気配りがなされています。1階は集会所で、地域の人たちが使いやすいように小部屋もあり、

2階が礼拝堂でエレベーターもある。当然ながら三光教会との共通点は多く、礼拝堂の雰囲気は三光を明るくした感じです。

受付には毎月の黙想会の案内があり、7月の案内者中川英樹司祭のお名前がありました。練馬ボーイスカウトとかかわりは長く、地域との交流は活発のようです。

住宅地のど真ん中に位置し、それぞれ歴史を持つ3教会の合同でもあり、建築にはいろんな気を使われたことだろうと推測されます。しかもコロナ真っ最中の建築で大変だったでしょう。(落成祝いの集合写真では全員マスクしている)

どこの教会もそうでしょうがコロナのせいもあり、各集会は自粛他教会との交流も全くなし。これが当たり前になってはいけない、意識して他教会の活動に学ばべきだ、と感じた一日でした。

中高生キャンプに参加して

橋本七穂

私は今回初めて中高生キャンプに参加しました。高校一年生になり、大自然の中で新しい発見や友達を見つけたい、将来のことを考える時間になりたいと考え、このキャンプに行こうと決めました。実はもう一つ理由がありました。それは、教会に行く意味を見失っていたことです。私は小さい頃から両親の影響で教会に通っていて、物心がついた頃には教会は私にとつて家族のような存在なっていました。しかし、コロナや高校受験で三年間ほど全く教会に行けていませんでした。受験を乗り越え、教会に行けるようになった時、私はふと、なぜ私は教会に行かなければいけないのだろうか、行く意味はなんだろうか、と思ってしまうようになっていました。そう思ってしまう自分に嫌気がさした時もあり、だからこそ、今回のキャンプでもう一度神様と向き合う時間が欲しかったのです。そのことがキャンプ参加に迷う私の背中を押すきっかけとなったのです。

そうして参加したキャンプでは、たくさんの人に出会い、たくさんの方の話聞き、たくさんの方の話を学ぶことができました。また見失っていたことも見つけることができました。

祈りの時間で聖書を読んだ後、スタッフの方がその聖書を選んだ理由を話して下さる時間がありました。その方のお話は、孤独を感じた時に、その聖書の箇所を読んだら神の愛を感じた、ということでした。今まであまり聖書を身近に感じたことがなかったのですが、その方のお話を聞くことよつて、聖書が人を助けたという事実が気づかされたのです。私はもつと聖書を読みたいと思つたようになりました。またまたはつきりしたことはわかりませんが、これが教会に行く一つの理由なのかもしれないと思つたのです。私がつ通つていく高校がキリスト教の学校でしたら、日々の中で聖書に出会えるかもしれせん。でも普通の学校です。全く日常生活の中で聖書を考える機会がありません。今回のキャンプによつて、多くの友達と、多くの聖書のお話に出会うことになりました。この機会が、これからの私の生活にきつと何かしらの変化をもたらしてくれるものと思つています。夏のキャンプに参加して、本当によかつたと思つています。

応援のお願い

日本聖公会の元、社会福祉法人聖ヒルダ会は、医療、教育など殊に弱者救済には多くの福祉施設や病院、学校に力を注ぎました。その一つ軽費老人ホームが50年を過ぎ、大きな改修が必要となりました。三光教会も色々な立場で応援、ボランティア等で長い関りが続いています。

この度、大改修応援のためのチャリティーコンサートを催すことになりました。英国のヴァイオリニストのご協力を得て、「サイモン・スタンディジと仲間たち」のコンサートです。

日時・10月21日(土)14時開演
場所・戸塚区民文化センター
さくらプラザホール

入場料・3000円

JR、横浜市営地下鉄 戸塚駅から外へ出なくて行けます。

ご案内は聖堂後方に貼つてあります。ご質問や券の取り扱いは橋本夏子までお願いします。

多くの方の応援をよろしくお願ひ申し上げます。(記・橋本夏子)

社会福祉法人聖ヒルダ会ベタニアホーム大改修応援チャリティー
コンサート

「サイモン・スタンディジと仲間たち」

2023年10月21日(土) 開場13:30、開演14:00

戸塚区民文化センター さくらプラザホール

横浜市戸塚区戸塚町 16-17 戸塚区総合庁舎4階

広報・藤田清子姉逝去される

いつも気さくに声をかけ丁寧に教えて下さいましたね。低音ボイスが今も心に響いています。視力の弱い父を気遣って下さり有難うございました。清子さんの優しさ、ずっと大切にします。

(石川佳子)

清子さんと広報楽しかったです。荏原病院でボランティアされている清子さんに何度もお目にかかりました。教会、外部とやさしかった清子さん、皆をお守り下さいネ。

(児玉美智子)

セシリア藤田清子様をお忍びして。広報委員会の折、作業をさせて頂きながらお隣りで辞書を片手にご指摘を下さっていた事を思い出します。又、お優しいお人柄が、アメリカ在住のお嬢さまのご主人様、逝去の頃より少しずつ体調を崩されたご様子でコロナ禍のために委員会も中断、お会い出来ないまま今日を迎えてしまいました。誠に残念でございます。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(吉村輝夫・悦子)

清子さんはいつも聖堂の左側前方に座つていらつしやいました。委員会では横の席で沢山の事を教えてくださいました。そこにお姿がないのは寂しいです。ありがとうございます。

(篠原晴美)

清子さんがご逝去され、思い出されることは素敵な笑顔と凛とされた正義感、そしていつでも誰にでも優しく接していらしたことです。これからも近くで見守って下さいますように。

(村井美帆)

「ひかり」題文字横にあるシンボルマークは、清子さんがアメリカで購入して下さった本から毎回選んで使用しています。「ひかり」が発行され続けるかぎり清子さんがいつも一緒にいて下さる気がいたします。

(大久保郁子)

故・藤田清子姉は、療養中の教会員の励ましに通うことをつとめとされて居られました。いくたびも一緒に過ごしていただいた思い出があります。心あたたかきお人柄がしのべれます。故人のご冥福と残されたご家族の平安を祈り上げます。

(鈴木 一)

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ

礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。

- 礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

- 主日礼拝
 - 午前 7:30 聖餐式
 - 午前 10:30 ステパノ会 (日曜学校) 礼拝
 - 午前 10:30 聖餐式
 - 午後 4:00 夕の礼拝
- 平日礼拝
 - 毎朝 6:30 から
 - 月、水、金は朝の礼拝、火、木、土は聖餐式